

第1回どっぷり高知旅キャンペーン推進委員会 委員発言要旨

日時：令和5年12月5日(火) 10:30～12:15

場所：ザクラウンパレス新阪急高知 3階 花の間

《配布資料》

- 資料1-1 どっぷり高知旅キャンペーン推進委員会会則(案)
- 資料1-2 推進委員会委員名簿
- 資料2-1 どっぷり高知旅キャンペーンの基本計画(案)
- 資料2-2 どっぷり高知旅キャンペーンを通じた観光商品の充実
- 資料2-3 「どっぷり高知旅キャンペーン -シーズン1-」の展開(案)
- 資料3-1 事業計画(案)
- 資料3-2 収支予算(案)
- 資料4 どっぷり高知旅コンテストについて
- 資料5 ビジュアル(ポスター等)の制作イメージについて
- 参考資料1 どっぷり高知旅キャンペーンの実行体制(案)
- 参考資料2 推進委員会事務管理規程(案)
- 参考資料3 推進委員会事務決裁規程(案)

1 開 会

進行：高知県観光政策課 吉野課長補佐

2 知事挨拶

挨拶：高知県 濱田知事

3 推進委員会の設立について

① 推進委員会会則等

【資料：1-1】 どっぷり高知旅キャンペーン推進委員会会則(案)

【資料：1-2】 推進委員会委員名簿

【参考資料：1】 どっぷり高知旅キャンペーンの実行体制(案)

【参考資料：2】 推進委員会事務管理規程(案)

【参考資料：3】 推進委員会事務決裁規程(案)

説明：高知県観光政策課 鈴木課長

参加者の承認を得て「どっぷり高知旅キャンペーン推進委員会」発足

② 役員等

【資料：1-1】 どっぷり高知旅キャンペーン推進委員会会則(案)

説明：高知県観光政策課 鈴木課長

会長(山脇部長)が副会長、監事を指名

4 議決事項

説明：高知県観光政策課 鈴木課長

(1) 第1号議案 基本計画案について

- ① どっぷり高知旅キャンペーンの基本計画
- ② 「どっぷり高知旅キャンペーン -シーズン1-」の展開 (案)

(2) 第2号議案 事業計画 (案) 及び予算 (案)

- 【資料2-1】 どっぷり高知旅キャンペーンの基本計画 (案)
- 【資料2-2】 どっぷり高知旅キャンペーンを通じた観光商品の充実
- 【資料2-3】 「どっぷり高知旅キャンペーン -シーズン1-」の展開 (案)
- 【資料3-1】 事業計画 (案)
- 【資料3-2】 収支予算 (案)

参加委員の賛同を得て第1号議案承認

5 協議事項

(1) どっぷり高知旅コンテスト等について

- 【資料4】 どっぷり高知旅コンテストについて
- 【資料5】 ビジュアル (ポスター等) の制作イメージについて

説明：高知県観光政策課 鈴木課長

意見交換

発言：小松副会長

▼キャンペーン全体について

- ・今回のキャンペーンは足元にある物を改めて見つめ直し、その魅力を発信することで観光客の長期滞在を促すものと解釈。(例：沈下橋の由来や四万十川の風景の成り立ち)
- ・県内には魅力的な素材がたくさんあるので、地元の人たちなどの意見を聞きながら、地域の素材を拾うような意識を持って取り組みたい。

▼どっぷり高知旅コンテストについて

- ・コンテストの実施はすごく良いことだと思う。観光協会の職員などは、体験メニューも実地で取扱っているため、結構面白いアイデアを持っている。
- ・一般県民向けのコンテストは、地域の意見を聞くということにもつながると思うのですごく良い。
- ・県内の学生にもコンテスト参加を呼びかけると、面白いアイデアが出てくるのではないか。
⇒県内学生からの応募も検討したい。その他コンテストに関して地域の実情も踏まえて話を伺いたい。

発言：集落活動センターなめかわ 庵原けい子委員

▼どっぷり高知旅コンテストについて

- ・コンテストの開催時期はどのようなイメージで設定したか。
- ⇒「どっぷり旅」のイメージが浸透する前に応募枠を広げると混乱を招く恐れあり。今年度中に地元を深く理解している観光関係者からコンテストを行う。ポスターなどで「どっぷり旅」をビジュアル化しイメージを広げた後、一般県民と県外からの旅行者向けに開催し、高知の魅力を引き出して貰う。

発言：(一社)土佐れいほく観光協議会 松島 弘委員

▼誘致・広報事業について(土佐井クーポン券)

- ・旅行会社向け土佐井クーポン券はどういうものを想定しているか。
- ⇒特典付きのクーポンブックの作成を検討中。旅行会社の商品に組み込んで頂くことを検討している。

(2) キャンペーンその他の施策について

発言：高知県旅館ホテル生活衛生同業組合 西谷 進監事

▼プロモーションについて

- ・最初のポスターが肝心。高知の魅力が伝わるインパクトある物を作って頂きたい。

発言：(公財)高知県文化財団 久保 誠監事

▼受入事業について(インバウンド・アンテナショップ)

- ・インバウンド需要を取り込む施策はどうするか。
- ⇒「極上の田舎、高知。」は国内外同じコンセプト。磨き上げた資源や商品で対応可能と考える。地域との交流や暮らしに触れるなど海外の方ならではの志向や、ガイドの力も取り入れ市場に売り込んでいく。
- ・来夏オープンの大阪アンテナショップを活用したPRは検討しているか。
- ⇒現在、NEXCOさんと連携しクーポンガチャを実施中。アンテナショップでも実施可能と考える。アンテナショップのコンセプトも「極上の田舎、高知。」と同じなので、連携を意識しながら検討を進めたい。

発言：(一財)高知県地産外商公社 野戸 昌希委員

▼プロモーション展開について

- ・地域で素材を発掘する時の人々のコミュニケーションや商品化への課程を見える化して、発信していくと良いのではないか。写真や動画等で記録を残すことが重要。伝え方の技術が必要なキャンペーンと感ずる。
- ・全国放送で取り上げられるためには、地元のテレビ局の力は非常に大きい。定期的なコミュニケーション機会を作って欲しい。

発言：(株)宮地観光サービス 近澤 真弓委員

▼どっぷり高知旅コンテストについて

- ・地元の思いを活かした商品を作ってほしい。個々の商品を繋げストーリーを作ることによって滞在型商品になると思う。

発言：高知県旅行業協同組合 吉岡 真佐人委員

▼プロモーションについて

- ・「極上の田舎、高知。」は良いネーミング。ポスターの中に具体的なイメージが入るとよい。
(例：貝を採り海水で茹でて食べる、木を蹴って栗を拾い茹でて食べる等の動作が判る)
インスタ映えとかアンテナが高い高校生の意見も重要と思う。

発言：とさでん交通(株) 水田 正彦委員

▼プロモーションについて

- ・全国にどう情報発信をするかが肝。核となる魅力ある商品が出たら成功すると思う。

発言：土佐くろしお鉄道(株) 松下 和清委員

▼「あんぱん」関連

- ・土佐くろしお鉄道にはやなせたかし先生から頂いた 21 のキャラクターがある。鉄道会社として何が出来るか考えていきたい。

▼どっぷり高知旅コンテストについて

- ・一般の県民向けの案内をいかにしていくかが重要と考える。

発言：四国旅客鉄道(株) 田岡 弘久委員

▼キャンペーンの推進体制について

- ・二次交通対策や中山間問題を考えると中山間振興・交通部も事務局に入れるのはどうか。

⇒今後「あんぱん」に関連してくる文化国際課や、人権・男女共同参画課などと相談し臨機応変に対応していきたい。

▼キャンペーン全体について

- ・一人あたり観光消費額について、現在の 26,000 円から 4 年後 29,000 円という目標値は少し低いのではないか。

⇒高知県の中小企業振興指針 5 年計画で、年率 2%付加価値額を高めていく目標を掲げている。

「宿泊業」「旅行業」も振興指針の目標値に基づき 29,000 円としている。状況変化も有り得るが、最終的には産業振興計画に位置づけていく。

- ・キャンペーン期間中、何らかの補助や高知県独自の旅行割などあるか。

⇒これまで国の交付金や補助金を最大限活用しトク割キャンペーンやリカバリーキャンペーンを実施してきたが、「どっぷり高知旅キャンペーン」での旅行者に直接補助することは今

のところ考えていない。

- ・自然体験型のプログラムは今ある商品をブラッシュアップすると思うが、もう少し増やしてもいいのではないか。

▼プロモーションについて

- ・「あんぱん」に関するプロモーションの時期を早めてはどうか。
- ⇒「あんぱん」はどのようなスキームを立て進めていくか庁内でも議論をしている。喫緊の課題として受入体制の充実・強化を香美市や南国市と進めており、随時展開(案)に加えていく。キャンペーン前半の2ヶ年は「あんぱん」に引っ張って欲しいと考えている。

発言：(一社) 幡多広域観光協議会 三浦 治委員

▼どっぷり高知旅コンテストについて

- ・残念ながら「らんまん」の効果は幡多地域ではあまり感じられなかった。幡多は人柄や素材がたくさんある。どっぷり高知旅コンテストでは色々な業界と協議して効果ある商品を出したい。

発言：(一社) 奥四万十高知 向井 利夫委員

▼どっぷり高知旅コンテストについて

- ・意識して盛り込んで欲しい素材などはあるか。応募枠があっても素材が重なり応募数が減る可能性がある。役割分担やカテゴリー分けなども検討し、多くの意見や素材を集めたい。

発言：(一社) 仁淀ブルー観光協議会 宮尾 法子委員

▼どっぷり高知旅コンテストについて

- ・秋に仁淀ブルー体験博を開催している。4月から地域の方々と共にワークショップを開催し商品を作るが、一過性で終わる商品もある。多くの素材を拾い上げるためにも広報の支援をして欲しい。

発言：(公社) 高知市観光協会 中村 千栄子委員

▼キャンペーン全体について

- ・高知の人の温かさが全面に出るピッタリのキャンペーンと思う。

▼どっぷり高知旅コンテストについて

- ・コンテストは、一人か少人数グループなどの小規模旅行者を対象と想定しているか。
- ⇒イメージとしてはそういう形で捉えて構わない。

発言：（一社）土佐れいほく観光協議会 松島 弘委員

▼受入事業について（インバウンド）

- ・先のインバウンド対応に関する質問について、コンテストにエントリー後アドバイザーが入るという方法があるのではないかと思う。

（例：K o c h i A m i g o株式会社と連携し吉延棚田ガイド+おにぎり作りのモニターツアーを行ったところ大好評）

▼どっぷり高知旅キャンペーンについて

- ・ロゴマークが出来るのであれば、印刷物やW e b 情報に入れていこうと思う。

⇒ロゴマークは作成予定

発言：（一社）物部川DMO協議会 小笠原 由美委員

▼どっぷり高知旅コンテストについて

- ・一般県民と県外旅行者向からは、私たちでは思いつかないアイデアが出ると思う。

▼「あんぱん」関連

- ・プロモーション開始が遅いと思う。9月頃から撮影予定のようなので、まずは県民に興味を持って貰うようなプロモーションを始めていただきたい。

- ・「らんまん」の撮影・放送開始が発表された時、W e b 視聴者が10万人だったのに対し「あんぱん」の発表時は60万人いた。心を掴んで離さないプロモーション・PRは今からでもやっていきたい。

⇒他の朝ドラ放送もあり、NHK側の本格的な番宣は2月末から3月直前。一気に盛り上げていくので、「話題化」という意味では山が出来ると思う。

⇒4月以降の観光商品にするには、秋には旅行会社等にセールスプロモーションをする相当タイトなスケジュールになる。物部川DMO協議会と協力してやっていく。

発言：（一社）高知県東部観光協議会 佐々木 博司委員

▼キャンペーン全体について

- ・以前、観光客が地元の人にキャンペーンの事を尋ねたが知らないと言ったことがあった。地元の人にもキャンペーンが広く深く浸透するよう周知して欲しい。

▼どっぷり高知旅コンテストについて

- ・観光事業者等へ案内文書等は送付されるのか。

⇒観光協会・広域観光協議会・市町村向け説明文書とエントリーシートを配布予定。個人のお店に権利関係の了解を得るなど、地元の方との調整は観光協会等で対応願う。

県民向けなど次の段階になってきた時には、周知させる何らかのツールは作りたい。

発言：高知商工会議所 古谷 純代委員

▼キャンペーン全体について

- ・「どっぷり」が心にしっかりと浸透してきた。素晴らしいネーミングでキャンペーンが進んでいると感じる。
- ・田舎を売るというのは非常に伸びしろがあると思う。
(例：香南市のニラ飛ばし大会は、都会の人の意表を突く新鮮な大会)

▼受入事業について（二次交通・施設の充実）

- ・関係地域周辺の二次交通対策が不十分。駐車場や交通手段の確保、トイレ、食事処が無い。受入環境の整備・充実は、キャンペーン後の観光需要を見据えても大変重要である。

発言：（公財）やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団 仙波 美由記委員

▼「あんぱん」関連

- ・アンパンマンのコンテンツ部分は大きな商業ベースに乗っており、既存のライセンスの契約などもある。朝ドラに合わせて色々変更できない部分が多い。
- ・ニッチなプライベートの物語（例：やなせの人となり、漫画家を多く輩出した高知県人としての特性）をお見せし、やなせが故郷のために残したキャラクターやその制作にまつわるエピソードなどの情報発信を考えている。

発言：高知県観光ガイド連絡協議会 森岡 俊幸委員

▼受入事業について（ガイド機能・体制の強化）

- ・4年後のガイド登録者数目標数値1,000名とあるが、退職年齢があがったこともあり入会数が増えていない。各団体、ガイド養成に苦勞している。高知県、各市町村の収入となるよう、観光客のお手伝いをしていきたい。

発言：高知県立高知城歴史博物館 大保 和巳（代理出席）委員

▼キャンペーン全体について

- ・博物館法の改正が行われ、博物館は社会教育施設という位置づけに加え観光等も含めた様々な分野に取り組んでいく努力義務が謳われた。県内各施設が観光に関連する、あるいは協力するような取組に力を入れていくことになる。
- ・ミュージアムネットワークの来年度以降の計画として、高知の魅力や見所を関係事業者と連携しミュージアムの視点から発信する予定。

発言：土佐経済同友会 友田 由美委員

▼どっぷり高知旅コンテストについて

- ・口コミやブログを見て様々なものに興味を示す時代。こちらからのプロモーションより、巻き込み方、新しいやり方をすると良いと思う。

発言：(一社) nosson 小野 加央里委員

▼キャンペーン全体について

- ・移住者から見て高知県の普段の暮らしが大変面白い。(例：オジイとウナギを食べる、鮎を釣る、おじちゃんおばちゃんと一緒に雑草を刈るなど)

このキャンペーンは高知ならではの物になると思う。

- ・これからは個人がSNS・インスタ・Xなどを用い、様々な情報発信をする時代。高知県の県民約67万人が高知県のアンバサダーになるということ。キャンペーンは4年間だが、ずっと続く考え方になると思う。価値の再発見をし、個人として「発信していきたい」と思う取組にしていけることが、このキャンペーンの成功かと思う。

発言：集落活動センターなめかわ 庵原 けい子委員

▼どっぷり高知旅コンテストについて

- ・県外旅行者向けコンテストはオンシーズンに行い、高知滞在中に情報発信して貰うと良い。(例：ホテルに投票用紙を置いて投票できたり、インスタ等でハッシュタグつけながら投票できる)

▼受入事業について(二次交通)

- ・移住者から見ても、高知県は交通の便で旅行のハードルが非常に高い。運転免許がなくても観光できるよう検討して欲しい。

発言：高知市旅館ホテル協同組合 上村 博孝委員

▼キャンペーン全体について

- ・今までのキャンペーンの中で一番効果的で良い取組と感じる。

- ・「売る」の目標値を数値化し、数値を出せる形で商品販売して欲しい。対個人客へのPRはWebのプロモーションが大事。サイトを作る時は戦略的な設計を願う。

- ・お客様による情報発信が一番のPR。最初にメインターゲットを若年女性に振り切ってはどうか。